



Vol. 39 No. 2
2022. Sep



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp.org/>

会長 高橋 敏弘

編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会 広報誌編集部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483

E-mail : akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp

事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号

TEL/FAX 018-837-0552

E-mail akita_ot@akita-ot.jp.org

広報部の
メールアドレスが
変更になりました!!



巻頭言 触れ合うことの大切さ

大湯リハビリ温泉病院 児玉 達則

作業療法士として仕事を始めて丸18年。今までかなりの数の患者さんを受け持った。もちろん自分の力量の低さから、患者さんが望む結果を出せなかったことも多い。それでも、100人いれば100通りの関わり方をしてきたつもりだ。そんな自分が働き出してまだ間もないころ、ふと気づいたことがあった。人は誰も日常生活において嫌なことがあると、気分が落ち込むことがある。その日も憂鬱な気分での患者さんのリハビリをしていたのだが、リハビリが終わるころにはすっかり元気になっていた。読者の中にも同じような経験をされた方がいるのではないだろうか。患者さんが元気になるより自分が元気になっているなんて、その時のことが今でも本当に忘れられない。それからは同じような経験をよくするようになった。なんで自分のほうが元気になっているのか、ずっとわからなかった。愚痴を聞いてもらった後のあのすっきりした感覚に似ている。

当病院は身体障害領域の患者さんがほぼ全てであり、直接身体に触れることが多いのだが、この「触れる」という行為に何か秘密が隠されているに違いない！とここ数年で思うようになった。そしてようやく判明した。最近CMでもやっている「オキシトシン」なるホルモン。このホルモンはみなさんご存じの通り「幸福ホルモン」とか「絆ホルモン」と呼ばれている。元々は出産時の陣痛の促進や射乳を促す作用があるとして知られていたのだが、人との親密な身体接触によって多く分泌され、脳と身体末梢の器官に影響を及ぼし、不安やストレスの緩和・鎮痛・免疫活性の増大・他者への信頼などの作用をもつことが最近明らかになってきた。ここで疑問に思ったことがある。この「親密」というフレーズ。そして触れられている患者さんだけでなく、触れている側の自分がすっきりしているのはなぜ？これらの疑問に関しては、様々な文献を読むことでなんとなく解ってきた。我々セラピストは（医療従事者なら一般的にそうなのだが）患者さんとの関係構築がまずは第一歩。どれだけ信頼してもらえるかは、セラピストの態度、口調、触れた時の力加減、身体部位の動かし方など様々な行為から患者さんは感じ取っている。自分を本当に良くしようと思ってきているのか、はたまたそうでないのか、この人に自分を任せて本当に大丈夫なのか、我々は常に患者さんから評価されている。なんとか良くなってもらいたいと思わな

いセラピストはいないだろうが、この気持ちを強く持っているかどうかで触れ方や接し方が変わってくると私は考えている。この信頼関係こそが「親密さ」につながるのだろう。そして、患者さんに共感すること、思いやりの心情や行動を与えたり、受けたりすることで双方向性にオキシトシンが増加するということから、なぜ自分のほうがすっきりしていたのか謎が解けた。

人は昔から痛いところがあると患部を撫でたり、または落ち込んでいる人がいたら背中をさすってあげたりして励ましてきたはずだ。このやり取り＝「手当て」が信頼を生み、人としての社交性を培ってきた。昨今は新型コロナウイルス感染症対策による人同士の直接の関わり合いの減少、接触の減少が問題となっているが、このような時だからこそ、しっかりと感染対策をしたうえで必要などころに「手当て」ができる人になりたいとつくづく思う。

学会長より



第29回 秋田県作業療法学会開催を終えて

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 津軽谷 恵

2022年6月4日(土)に第29回秋田県作業療法学会を昨年に引き続きオンライン(zoom)で開催し、120名(学生4名含む)の方に参加していただきました。

まずは、本学会開催に際し、演題を投稿および発表していただきました会員の皆様に感謝申し上げます。また、多くの会員の皆様に学会へご参加いただき御礼申し上げます。

今回の学会では、どの領域で仕事をしていても、対象者の生活を支える作業療法士としては、対象者の望む場所で望む生活を支援することには変わらず、対象者の目標を本人、家族、他職種と共有して生活を切れ目なくサポートしますので、テーマを「地域へつなぐ、地域でつなぐ～活動と参加の支援～」としました。特別講演では、群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科教授の竹原敦先生より、「高齢者や認知症の人がより良い人生を継続するために～作業療法士は何ができるのか?～」というテーマのもとご講演いただきました。竹原先生の視点で、高齢化率の最も高い秋田県を見ていただくと、まだまだ活用の余地がある資源や環境があり、これからの高齢者の活動の活性化や雇用についても希望が見えて驚かされました。自分たちの足元を見直して、使える資源を十分活用して、高齢者や認知症者に対して支援できることを検討していく必要性を感じました。また、私が70歳になっても就労の選択肢がありそうな気がしました! スペシャルセッションでは、「地域支援事業を我が事と捉えてみませんか?」というテーマで地域において活躍されている3名の先生方に現状と課題について熱く発表していただきました。秋田県内でも地域格差があり、行政とうまく連携しながら事業を進めているところもあればほとんど関わりがないところもありますが、今後は地域支援事業への要請がもっと増えていくことが予想されますので、要請に対応できる人材が必要となってきますので、たくさんの会員の皆様に興味を持って研修会等にご参加いただき地域の活動に関わっていただければ幸いです。

一般演題では、9題の発表があり、身障領域が5題、精神領域が1題、高齢期領域が3題でした。9題の発表を聴講して、改めて作業療法士の役割が多岐にわたることを認識しました。高齢期領域では、認知症カフェにOTとしてどのような関わりをすればよいのか、認知症者の排泄に関わる家族や経験の浅い職員に対してOTとしてどんなサポートが必要か、コロナ禍において施設で感染者が発生したときの非感染者の活動性維持のためにはどのように取り組むのか、身障領域で

は、チームで協同や連携したことで目標が達成された事例報告や障がい者の e スポーツの可能性について、精神領域では、対象者に応じた心理教育や認知機能改善療法を他職種と協同で実施して在宅生活へ移行できた事例についての報告がありました。

一日で、上記の講演や発表を聴講して、作業療法士が様々な分野で活躍できる可能性を実感できた学会でした。参加された皆様はどのように感じましたでしょうか？皆様の日々の臨床での実践が新たなエビデンスを生むことに繋がりますので、ぜひ来年の秋田県学会では、たくさんの方に発表をしていただき、情報を共有する場にさせていただきたいと思います。最後に、この頼りない学会長を温かく支えてくださった実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。



印象記① 第 29 回秋田県作業療法学会での演題発表を終えて

森岳温泉病院 成田 由香

秋田県作業療法学会には何度も参加してきましたが、発表は今回が初めてでした。毎回、演者の発表を聴きながら臨床での取り組みやセラピーの内容など、とても参考になっていました。月 1 回当院作業療法部門のバイザーをお願いしている金城先生（今年の 3 月で秋田大学を退職されました）から、常日頃、自分の行っている臨床をまとめること、そして発表することの大切さを問われていたのですが、日々の業務を理由にずーっと避けていました。

今回、自転車運転への介入を行う機会があり、すべてが初めての試みだったため自分自身の振り返りも兼ねて演題を発表することにしました。また、リモートでの開催ということで、人前で話すことが苦手な私でもいくらかハードルが低いだろうと思いました。しかし、いざスライドにまとめようとすると、思いのほか苦労しました。7 分という短い時間に自分の実施してきた内容や伝えたいことなどを凝縮し、分かりやすく、見やすくまとめることの難しさを改めて感じました。

自転車運転への介入は当院ではほぼ初めての試みでした。自転車は自動車や徒歩に次ぐ外出手段である（厚労省 2009）といわれており、運転免許の無い症例にとっては大切な移動手段でした。また、自転車による外出頻度は余暇活動量や総活動量と関係が見られるという報告もあります（角田 2011）。公共交通機関の便が良いとはいえない地域では、移動手段の喪失は生活範囲の狭小化や生活の質の低下など、参加制約の原因となります。地域在住の高齢者にとって自転車運転の再獲得は、私たち医療従事者が思っている以上に潜在的な需要があると思われます。しかし、自転車への介入は転倒や怪我のリスクが高く、入院中に行う介入としては二の足を踏んでしまうことも多いのではないのでしょうか？本症例も入院当初から自転車運転再獲得に対する希望がありましたが、バランスの低下や軽度の注意障害が認められるなど、運転にリスクが予想されました。また、症例自身も希望と共に不安も感じていました。そのため、自転車への介入は当初は優先事項ではありませんでした。しかし、自宅周辺の交通状況や退院後の生活を考えると自転車は症例の生活にとって必要不可欠なものであると分かりました。加えてご家族の協力もあり「自転車運転再獲得」を目指すことになりました。そこからは、何をどう評価したらよいのか、どのように介入していくのか、右往左往することも多々ありましたが、文献も参考にしながら何とか目標を達成することができました。学会への発表に向け一連の介入を振り返り、今後の課題や自転車運転の支援を整備しなければならないことも明確になったと思います。何よりも、症例の望む

生活行為へアプローチすることの大切さを改めて感じることができました。

今回のリモートによる学会は自宅でリラックスした環境での参加でした。合間にお茶を入れたり、子供の宿題をチェックしたり(すみません…)ですが、対面による学会特有の緊張感や引き締まった雰囲気も懐かしいなあ…と感じました。来年は対面での学会開催ができることを願っています。

最後になりますが、学会開催にあたり津軽谷学会長はじめ実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。



印象記② 第29回秋田県作業療法学会に参加して

介護老人保健施設ニコニコ苑 清水 郁美

令和4年6月4日に開催された秋田県作業療法学会に参加しました。去年と引き続き、新型コロナウイルスの影響でZOOMでのオンライン開催となり、学会や研修に参加する私もパソコン1台で手軽に参加できる、オンラインでの研修が当たり前になってきました。

今回の秋田県作業療法学会のテーマは「地域へつなぐ、地域でつなぐ～活動と参加の支援～」ということで、現在、介護老人保健施設の通所リハビリに勤務し、日々利用者様にとっての意味のある活動や社会参加への支援を模索しているため、様々な臨床現場での取り組みを知ることができ、とても参考になりました。

特別講演では群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科教授、竹原敦先生より、「高齢者や認知症の人がより良い人生を継続する為に～作業療法士は何ができるのか～」というテーマで講演頂きました。高齢になるにつれ、認知症の有発率は上昇、秋田県の高齢化率は全国1位…と県民なら誰もがマイナスなイメージに捉えることを、「作業療法士としての大チャンスですよ！」と発想の転換、ポジティブに捉えられたことに驚きを隠せませんでした。「認知症」と聞くと、ご家族様や他職種の中には先入観により、言動や行動への理解が難しく、行動に制限をかけてしまうことがあります。以前、臨床で担当していた、認知機能が低下した利用者様が「パソコンを使いたい」と話したことがありました。病前、パソコンを使用しインターネットでネットサーフィンをしていたと聞いていましたが、恥ずかしながら、私を含め、家族や関わる他職種との間では「難しい」と判断していました。しかし、その方は自身で回線を繋ぐ準備をし、インターネットを使用して調べものやデータが残っていた写真をプリンターで印刷し、プレゼントしてくれたことがありました。「認知症や高齢者の人の失われたやりたいことを満たすことが地域への繋がりになる」と話されていたように、高齢であっても、認知症であっても本人のやりたいという強い想いは私たちの想像を超え、行動になり、実現するということを実感しました。

高齢や認知症の人がより良い人生を継続する為に、作業療法士はその人のひととなりや上手く伝えられない想い、行動を理解し、関わるご家族様や他職種たちへ伝え、橋渡しをする役割を担っています。個別性、多様性のある作業の中から、その人らしい、本当にやりたい意味のある作業を見つけ出し提供できるよう、これからも利用者様の気持ちに寄り添い支援していきたいです。

職場紹介

JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 リハビリテーション科 作業療法部門

寺尾 崇

平鹿総合病院リハビリテーション科作業療法部門の紹介をさせていただきます。

当院は秋田県横手市にある 500 床規模の総合病院で、県内に 9 つの系列病院があります。当院のリハビリテーション科は急性期のリハビリテーションを行っており、施設基準は総合リハビリテーション施設として届け出をしています。

リハビリテーションスタッフの構成としましては医師 1 名、理学療法士 17 名、作業療法士 6 名、言語聴覚士 3 名、看護師 1 名で、脳血管疾患、心臓疾患、呼吸器疾患、整形外科、形成外科、外科の患者様のリハビリテーションを行っており、心臓リハビリテーションは専従の理学療法士 1 名、看護師 1 名で行っております。また、秋田県より支援を受け、県南における障害児の療育専門施設（地域療育拠点施設）としてリハビリテーションをおこなっております。地域療育拠点施設とは、専門的な療育施設を持つ総合的な施設が、支援施設と療育施設の連携を図り、支援の体制を充実させることを目的につくられたものです。乳幼児健診等で発達の遅れ等を指摘され、療育専門機関から各種の機能訓練が必要とされたお子さんとそのご家族に対し支援を行っております。

作業療法部門スタッフは 6 名と病床数に対して少ないように感じますが、形成外科や療育部門等、専門性の高い部門があり、日々の臨床業務に励んでおります。





みんなと語るべ ～日々の楽しみ方～

語り手: 藤原記念病院

平沢進師匠に出会って早17年.御年68歳と思えぬ歌声.素敵です...観客参加型のストーリー仕立てマルチメディアコンサート『インタラクティブライブ』など生歌が真骨頂な御方ですが,コロナ禍により現地参加は見送っています.また参加できる日を楽しみに,車で一緒に歌いながら通勤したり自宅でライブ映像を拝んだりしつつ日々過ごしています.



コロナ禍で外でお酒を飲む機会がなくなり,美味しいビールが飲みたいな...と思い,納戸の奥をゴソゴソ...数年前に購入した生ビールサーバーを使い始めました.発泡酒でもお店で飲むようなクリーミーな泡立ちで,意外と美味しいです!週末はちょっと贅沢にビールで楽しんでいます.健康に気をつけつつ,美味しい時間を楽しみ続けたいと思います.

スポーツ観戦が好きでバスケットと野球で1年間楽しんでいました.コロナ禍のためここ数年は現地観戦ができずテレビ前で過ごすシーズン.応援したいチームがあって,応援したい選手がいる楽しみ!そして,球場や会場ならではの食べ物やお酒は雰囲気も相まって美味しさ倍増!笑.ああ行きたい!安心して現地で楽しめる日が早く訪れることを願う日々です.



広報誌編集部から

- ・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その思いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報をお待ちしております。

宛先はこちら⇒⇒ akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp

広報部の
メールアドレスが
変更になりました!!

新企画案内『みんなで語るべ～日々の楽しみ方～』

- ・内容：日々の中での楽しみ方や仕事の一場面,最近やってみた事等.
- ・文字数：140字～160字 ・写真：1枚
- ・施設名のみ掲載させて頂き,原稿執筆者の名前(イニシャル含む)は掲載しません.1回の発行につき,2～3名にご協力頂きたいと思っております.



お詫びと訂正

前月号：39-1において、「2022年度一般社団法人日本作業療法士協会 特別表彰」受賞に関しての紹介文内と、「みんなで語るべ～日々の楽しみ方～」の施設名に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

6頁

(誤) 全国の作業療法士の中から年に1名だけが受賞する名誉あるもの
※協会に問い合わせたところ,受賞人数の規定はありませんでした。

7頁

(誤) 語り手：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
(正) 語り手：あをによしリハビリ脳神経外科クリニック

今後,同じことの無いようチェック体制を見直してまいりますので今後ともよろしくお願ひ致します。

秋田県作業療法士会 広報誌編集部


編集後記

毎日暑い日が続いていますが皆さんいかがお過ごしでしょうか？コロナウイルスも変異株の出現により第7波に突入してしまいましたね…。終息が見えない日々が続きますね…。また、今年のお盆は記録的豪雨によって各地の川が氾濫したり土砂崩れが起きたりと自然災害も発生しました。皆さんはどのようなお盆を過ごされたでしょうか？私は仕事終わりに墓参りへ行ってきました。コロナの影響もあり、夜は親戚や家族とお酒を飲んで賑やかに過ごすことは出来ませんでした…。しかし、来年こそは、県外にいる親戚も含め、全員で集まって賑やかにお酒が飲める状況になってくれればなと願っています。

話は変わりますが、最近の私のマイブームは釣りです。溪流でヤマメやイwanaを釣って楽しんだり、海に釣りに行ったりと新しい趣味が出来ました。しかし釣りは奥が深く、まだまだ修行が必要だなと感じているところです…(笑)。いろいろと教えてもらいながら楽しんでできればなと思います。(koma)



(一社)日本義肢協会登録
東北 101号

 株式会社
千秋義肢製作所

~~~~~

義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品

~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22
TEL 018-823-3380
FAX 018-862-5126
<http://www.sensyugishi.co.jp>

立位移動補助具 アクティモ NR **SAKAImed**

actimoNR

早期活動を促す
新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先
酒井医療株式会社
www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所
(青森・秋田・岩手エリア担当)
TEL : 019-656-5336

東北支店 仙台営業所
(宮城・山形エリア担当)
TEL : 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス
(福島エリア担当)
TEL : 024-927-0231